

# 進路だより

2021. 3. 11

第 6 4 号

香川県立香川東部養護学校  
進路指導部

小学部4名、中学部9名、高等部19名の卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。コロナ禍の一年、様々な制限がある中、卒業生の皆さんは、最上級生として、それぞれの学部で頑張ってきました。4月からは中学生として、高校生として、社会人として新たな一歩を踏み出します。新しいステージでの活躍を心より願っています。



## 高等部卒業生の進路先一覧

就労形態	進路先	地域	主な仕事・活動内容
一般就労	服飾加工会社	東かがわ市	手袋やストールの製造
	官公庁	東かがわ市	PC入力、オフィスサービス業務
	老人介護施設	さぬき市	施設内の清掃、配膳、介護補助
	うどんの製造・提供会社	高松市	食器等の洗浄、店内清掃、調理補助
就労継続支援 A型	ほまれの家高松店	高松市	調理補助、弁当詰め、洗浄、軽作業など
就労移行支援	hito.toco (ヒトトコ)	高松市	差込プラグの組立、商品の封入、パソコン入力、 ソーシャルスキルトレーニングなど
就労継続支援 B型	さつき園	東かがわ市	菓子の箱折り、組立、台紙折りなど
	ワークセンターはくちょう	東かがわ市	介護製品の封入、農作業、ボルトナット締めなど
	朝日平成園	高松市	蝶番の箱入れ、ビスの封入、ボルトナット締めなど
	ピアハート	高松市	鶏肉の串さし、計量、袋詰めなど
	せんり	高松市	箸の封入、紙製品の折り曲げ、組立作業など
	サンサン	高松市	施設外清掃、木製品の組立、用紙の封入など
	SCC昭和町	高松市	ラベルの添付、袋の枚数確認、検品作業など
生活介護	真清水荘	さぬき市	創作活動、余暇活動、入浴など
	いっぽ	三木町	軽作業、ウォーキング、余暇活動など
	朝日平成園	高松市	軽作業、創作活動、レクリエーション
	ぎんせいワーク	高松市	段ボールのバリ取り、仕切りの組立、余暇活動など
	コンサフォス	高松市	創作活動、余暇活動など
	ふじみ園おおぞら	丸亀市	創作活動、運動、ウォーキングなど

# 進路指導部

## キャリア・パスポート スタートしました！

キャリア教育実践のための効果的なツールとなる「キャリア・パスポート」が、2020年4月からすべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校において実施することになり、本校においても運用が始まりました。

「キャリア・パスポート」とは、子ども達が小学校入学から高等学校卒業までの間、キャリア教育に関わる活動について子ども達自身で記入し、記録を保管していくポートフォリオです。自分で記入し、また振り返ることで、「やりたいこと、なりたいものを実現するためには、今、そしてこれから何をすべきか」のプロセスを考えるきっかけ作りになることが期待されています。また、保護者の方にも年度末にメッセージを記入してもらうことで、子ども達の励みとなったり、我々教員と一緒に子ども達のキャリア発達について考えたりできたらと思います。ご理解・ご協力をお願い致します。

本校では、オリジナルの5つの様式（A～E様式）のキャリア・パスポートを制作し、子ども達の実態に合わせて活用しています。今後も改良を重ねていき、より使いやすいものになるようにしていきたいと思っています。



がんばったことの写真を選んで、キャリア・パスポートに貼っていくよ！

キャリア・パスポート  
東部版 A 様式



## 小学部

キラッと小学部！

～頑張るともだち紹介～

高学年委員会活動編

小学部では、高学年から縦割3グループに分かれ、委員会活動を行っています。通年で各委員会に所属し、毎月1回活動しています。それぞれの委員会において、友達や学校の役に立てるよう、自分のできることに精一杯取り組んでいます。

部集会委員会



掲示委員会



【仕事内容】

季節の飾り作り、  
おすすめの図書紹介や発表

季節に合った飾りを作ったり、季節ごとのおすすめの図書を紹介したりする等、楽しい掲示物で小学部の掲示板を明るくしてくれています。

【仕事内容】

トイレットペーパー・石鹸・アルコール消毒液の補充、ごみ捨て、  
花の装飾、花の水やり

各教室の消耗品を補充したり、ごみを回収してごみ捨てをしたりします。また花の水やりも行い、綺麗な花が咲くとそれを小学部の靴箱の上に飾ります。

クリーン委員会



【仕事内容】

部集会の司会進行と練習、挨拶運動の推進活動

毎月の小学部部集会において、司会進行係としてせりふを言ったり、みんなの前に立って「オアシス運動」の挨拶をしたりします。



## 中 学 部

中学部では、2、3年生が年に1回、「社会見学」を行い、進路に関する学習をしています。今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、3年生は社会見学の実施が難しかったのですが、先日、2年生が施設見学、作業体験を行うことができましたので、その様子を紹介します。

就労継続支援B型「ほのぼのワークハウス」に行ってきました。焼き菓子製造販売、内職作業、農作業などを行い、絵画や音楽などの芸術活動も積極的に行っている施設です。中学部2年団が学校祭で販売した「アマピエクッキー」もほのぼのワークハウスで製造していただいたものです。焼き菓子製造販売では、たくさんのニコニコクッキーを型抜きしているところを見学しました。内職作業では、電線の分解を見学し、実際に電線の切込み作業を体験させていただきました。農作業では、アスパラガスの畑に肥料を入れているところや、広い畑の様子を見学しました。どの部門も本校の先輩たちが働いている様子を見ることができました。作業への取り組み方として、良い姿勢で作業していること、おしゃべりをしないで作業をしていることなどを知り、自分たちが作業学習をするときにも、大切なことだと再確認することができました。生徒たちにも分かりやすく丁寧に説明してくださり、「働く」ことについて考える良い機会になりました。最後には、クッキーを試食させていただきました、大満足の様子でした。



## 高 等 部

高等部1年生では、10月12日～23日まで後期職業週間を実施しました。新型コロナウイルスの影響で、前期は5日間の作業週間となったため、2週間という長い期間での実施は初めてでした。3グループに分かれてボールペンの組み立て分解作業、園芸作業、リサイクル作業等の様々な作業に取り組みました。細かな作業に集中力が続かなかったり持久力の大切さを感じたりと、課題を見つけることができました。これからの学校生活で課題の改善に取り組み、来年の現場実習を実りあるものになりたいと思います。

高等部2年生は、10月12日～23日まで2週間の後期現場実習を実施しました。前期は新型コロナウイルスの影響で実習に行くことができなかったため今回が初めての現場実習でした。生徒たちはそれぞれの実習先で一所懸命に仕事に取り組み、不安を乗り越えて自信をつけることができました。2年生の現場実習は「自分の力を知る」実習ということで、学校生活の中では気づかなかった自分の得意な事や苦手な事を知ることができました。実習で得た成果や課題を受けて3年生での現場実習につなげるようにしたいと思います。



# 進路指導部

## 「レジリエンス」

進路指導主事 中川範夫

『選手を育てるには、5つ褒めて、3つ教えて、2つ叱るのがよい』。これは元プロ野球選手で引退後も監督や解説者として活躍された、野村克也さんの言葉です。元々は江戸時代の農政家、二宮尊徳の教えであるそうですが、監督時代、この言葉をチームの選手への教育や指導の肝所としていたとのこと。野村さんといえば、残念ながら、昨年鬼籍に入られてしまいましたが、生前は、選手の育成やチーム力の強化、人間教育の観点からも言動が注目され、その手腕は高く評価されていました。冒頭の言葉の後には、こう続きます。『叱られることで、なぜ失敗したのか、なぜ叱られたのかを考えるようになる。それで人は成長できるのだ』。もちろん、プロ野球の選手への教育と特別支援学校の子どもたちへの教育は違うかもしれませんが、失敗したり叱られたりした経験を糧にして成長を促す、期待するという点では相通じる部分もあるように思います。

さて、進路指導の話です。毎年、高等部を卒業した生徒たちは、会社に就職したり福祉サービス事業所に通所したりして、社会人としての新生活をスタートします。しかし、中には、程なくして離職してしまったり通所できなくなったりする生徒がいます。話を聞くと、「仕事で失敗して、迷惑をかけてしまった」、「〇〇さんに叱られた」、「△△さんが嫌、一緒に働きたくない」などの言葉がよく出てきます。要するに、失敗したり叱られたりしたことで自信を無くしてしまう、人間関係を悪くしてしまう、そして、その状況から抜け出せない、負のスパイラルに陥ってしまうことが原因であることが多いです。そんな卒業生たちのアフターフォローをする中で実感するのが「レジリエンス」の大切さです。

レジリエンス (resilience) : 一般的に「復元力、回復力、弾力」などと訳され、元は物理学の分野で使われていた言葉ですが、近年は「逆境から素早く立ち直り、しなやかに適応して生き延びる力、成長する力」という心理学的な意味で使われるケースが増えています。 ※人事労務用語辞典より

今の学校教育では、児童生徒、とりわけ知的障害のある児童生徒の特性に応じた指導や支援として、成功体験で終わらせ、褒めて、自己有用感を育てることは最も大事に考えられています。ただ、「5つ褒めて、3つ教えて、2つ褒める」になっていないでしょうか。失敗しないように、叱られないように先回りした支援になっていないでしょうか。確かに、褒めて育てることは基本です。しかし、社会に出てからの長い人生、失敗したり叱られたり、自分の思い通りにいかないこともきっとあるでしょう。その時に必要なのは、そこから立ち直る力、対処するスキル、折れない心だと思ふのです。

香川東部養護学校には部活動があります。一般就労を希望する生徒の多くが、競技力や体力、社会性の向上を目標に頑張っています。ある卒業生の例です。彼は、入部当初、全力疾走を怠ったり無断で練習を休んだりして、顧問の先生や担任の先生からよく叱られていました。しかし、高等部の3年間でまるで別人のように成長し、現場実習を経て、卒業後は製造関係の会社に就職しました。今ではその会社に欠かせない人材として立派に働いています。これも在学中の先生方の指導や支援、保護者の方の支えによって、彼自身、失敗した時や叱られた時、困った時にどう対応すべきかを学び、その解決の方法をしっかりと身に付けることができた結果だと思ふます。

これは、部活動に限らず、学校の授業や家庭生活の取組においても同様のことが言えるでしょう。将来の自立と社会参加に向けて、「レジリエンス」を育てる。そのために、子どもたち一人一人に応じた最適な指導や支援の仕方を探りながら、時には叱咤激励し、日々の教育活動を進めていきたいと思ふます。

最後に、野村さんの言葉をもう一つ紹介して終わります。

『叱ってこそ人は育つ、期待するから叱る、もっと育ててほしいと思うから叱る。「叱る」の根底には「愛情」があるのだ』

